

# 今話題のFJクルーザーを タフ×ビューティに乗りこなす

昨年末より日本で正式なデビューを果たしたトヨタFJクルーザー。今、巻の話題を独占するこの1台に、あの名門ブランドが着手。FJクルーザーのカスタムシーンに新たな旋風が巻き起こる。

■写真と文/林 剛直 [So-Kal International]

■問い合わせ/TOMMYKAIRA JAPAN Phone:0565-52-8555 URL:<http://www.tommykaira.com>  
アイロック (ティアプロ) Phone:052-704-0916 URL:<http://www.iroc.co.jp>



アグレッシブかつ繊細なデザインと、先進の空力特製でカスタムシーンを席巻するトミーカイラ。彼らがリリースするエアロパーツのクールさに「いつかは自分の愛車にも!」と憧れを抱く方は少なくないだろう。特に最近ではLEDライトをアクセントとして組み込み、デザインに新たな境地を見いだしている。LEDを採用するエアロは数多あれど、トミーカイラほど使い方の上手なメーカーは数少ない。例えばトヨタ車に対して近頃発表したプリウス用とご覧のFJ用キットは、ユーザーからの評価が非常に高い作品である。もうご存知の方も多いだろうが、アメリカで爆発的なヒットを飛ばしたトヨタFJクルーザーが、昨年の12月より日本でも販売開始となった。シャシーには、モノコック化された最近のSUVとは一線を画す伝統的なラダーフレームを採用し、サーフなどとサスペンションを共有する本格4WDである。ルックスも40系ランドクルーザーの面影を残したワイルド仕様となつて

## TOYOTA FJ CRUISER

トヨタFJクルーザー





クールな演出はインテリアにも及ぶ。カーボン製のステアリングはオン、オフを問わずドライバーを本気モードに駆り立てる。グリップのサイドは上質なレザーで巻かれステッチはレッド。

フロントセクションの変更パーツはスポイラー、グリルカバー、LED内蔵のバンパー・エクステンションカバーとなる。



右リ、左リ、両リといったフロント・ウィンドシールドはまさにクラシカル。トヨタのオフロード車の伝統が透けて見える作りである。しかし一方で、そのフォルムはアーバンライフにもマッチする。ワイルドさの中にはスタイリッシュさも共存し、都会の喧嘩に見事に溶け込めるのも特徴なのである。時計に例えるなら、ロレックス・サブマリーナのような存在といえようか。

こうしたFJの特製をより際立たせるコーデインイトこそが、トミーカイラが世に送り出したキットである。パーツ構成をフロント・パートから見るとスポイラー、グリルカバー、バンパー・エクステンションカバー、ウインカー・カバー（現車には未装着、詳しくはホームページ）となっており、リアはアンダー・デフューザー、ルーフスポイラー、フオグカバー、エンブレムで成り立っている。エキゾーストは左右2本出し。そして極めつけは、足元を光らせるディアプロホイール、モーフィアス（MORPHIUS）の存在だ。このモデルは現在ディアプロが展開するラインナップの中でも抜群の人気を誇っており、インサートのアレンジ次第で様々なルックスに変身するのが特徴。しかもどんなアレンジにしてもカッコよく仕上がるのが魅力である。ちなみに写真のサイズは22×9.5J、PCDD1399・7×6穴。オフセット+13。組み合わされるタイヤは200/55R22である。

さて、これらのパーツを装着したFJクルーザーは、何とトヨタ・ディーラーでも購入可能となる予定だ。



リアにはスポーティな鉄製のデフューザーが装着され、それを挟むカタチでデュアルマフラーが露を覗かせる。またクロムのフォグカバーは、たったこれだけのことなのにリアビューをゴージャスに変える。



タナベのロウリングサスで車高を落とした足回りには、DIABLOホイールのモーフィアス22インチ×9.5Jを装着。インサートはブラック。オフセットは+13。

